J613-M0019-04 Rev.D 050810

最初にお読みください

CentreCOM® 8724SL/8748SL リリースノート

この度は、CentreCOM 8724SL/8748SL（以下、CentreCOM を省略）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0019-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0019-01 Rev.D）の補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ソフトウェアバージョン　2.7.3-06

2　重要：2.6.1 pl12 以前からバージョンアップするときの注意事項

ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl12** 以前から **2.7.3-06** にバージョンアップすると、最初の再起動時に「設定なし」の状態で起動する場合があります。

このようなときは、バージョンアップ後にコンソールからログインし、SET CONFIG コマンドで起動時設定ファイルを指定しなおした後、本製品を再起動してください。例えば、バージョンアップ前に mynet.cfg という設定ファイルを使用していた場合は、次のようにします。

```
SET CONFIG=mynet.cfg
RESTART SWITCH
```

また、リモートからバージョンアップを行うときは、バージョンアップ後アクセス不能に陥ることを避けるため、次の手順にしたがってバージョンアップを行ってください。

1. バージョン **2.6.1 pl12** 以前で動作している本製品にログインします。
2. 次のコマンドを実行し、Boot configuration file: に表示されるファイル名をメモします。

   ```
   SHOW CONFIG
   ```

3. 次のコマンドを実行し、現在の設定を boot.cfg に保存します。boot.cfg は、「設定なし」で起動したときに自動実行される特殊なファイルです。

   ```
   CREATE CONFIG=boot.cfg
   ```

4. ログアウトします。
5. 「バージョンアップ手順書」の指示にしたがって、**2.7.3-06** にバージョンアップします。
6. バージョン **2.7.3-06** で動作している本製品にログインします。
7. 次のコマンドを実行します。xxxx には手順 2 でメモしたファイル名を指定します。

   ```
   SET CONFIG=xxxx
   ```

8. 手順 3 で作成した boot.cfg を削除します。

   ```
   DELETE FILE=boot.cfg
   ```

9. 以上です。

3　本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl12** から **2.7.3-06** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.7」（Rev.D）をご覧ください。

3.1　Welcome メッセージ（login.txt）

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「コマンドプロセッサー」

ファイルシステム上に login.txt という名前のテキストファイルが存在している場合、ログインプロンプトの前に同ファイルの内容が表示されるようになりました。

3.2　Ctrl/Q キーによる SHOW XXXX コマンドの画面出力中断

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「コマンドプロセッサー」

SHOW XXXX コマンドによる画面出力を Ctrl/Q（Ctrl キーを押しながら Q キーを押す動作）で中断できるようになりました（コマンドによっては中断できないこともあります）。

3.3　RADIUS 通信パラメーターの変更

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「認証サーバー」

RADIUS サーバーとの通信に使うパラメーターを変更できるようになりました。変更は SET RADIUS コマンドで行います。

3.4　IPv6 による TFTP ファイル転送

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「アップロード・ダウンロード」

LOAD、UPLOAD コマンドが拡張され、IPv6 による TFTP ファイル転送（アップロード・ダウンロード）ができるようになりました。

3.5　RSO（Remote Security Officer）の機能拡張

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「セキュリティー」

RSO（Remote Security Officer）が、IPv6 による Telnet ログインにも適用されるようになりました。また、RSO と RADIUS の併用が可能になりました。

3.6　syslog ファシリティー値の固定設定

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

ログメッセージを syslog サーバーに転送する場合、出力先（転送先）ごとにファシリティー値（LOCAL1 ～ LOCAL7 のいずれか）を固定で設定できるようになりました。設定は、CREATE/SET LOG OUTPUT コマンドの FACILITY パラメーターで行います。

3.7　ログイン時自動実行スクリプト（autoexec.scp）

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「スクリプト」

ファイルシステム上に autoexec.scp という名前のスクリプトファイルが存在している場合、User レベルのユーザーがログインした直後に同ファイルの内容が自動的に実行されるようになりました。Manager レベル、Security Officer レベルのユーザーがログインしたときには実行されません。

3.8　SNMPv3

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

ネットワーク管理プロトコル SNMP（Simple Network Management Protocol）のバージョン 3（SNMPv3）に対応しました。

3.9　SNMP 管理ホストのアドレス範囲指定

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

SNMP 管理ホストのアドレスを指定するときに、「192.168.20.0/24」のような範囲指定が可能になりました。範囲指定できるのは、ADD/CREATE/DELETE SNMP COMMUNITY コマンドの MANAGER パラメーターです。トラップホストは範囲指定できません。

3.10　Telnet セッション数の制限とアイドル時タイムアウトの設定

参照　「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

Telnet サーバー機能において、同時確立可能なセッション数を制限できるようになりました。また、アイドル時のタイムアウトを設定できるようになりました。設定は SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS、IDLETIMEOUT パラメーターで行います。

3.11　LACP（IEEE802.3ad）

参照　「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「LACP（IEEE802.3ad）」

対向するスイッチポート間でネゴシエーションを行い、トランクグループ（リンクアグリゲーショングループ）を自動的に設定する LACP（IEEE802.3ad）に対応しました。

3.12　Rapid STP：エッジポートにおけるループ検出機能

参照　「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

Rapid STP のエッジポートでループを検出した場合に該当ポートをディセーブルにする機能が追加されました。ループ検出によってディセーブルとなったポートは、SHOW STP PORT コマンドの「RSTP Port Role」欄が「Backup (Loopback Disabled)」に、「State」欄が「Discarding」になります。また、同コマンドの表示項目に、ループ検出回数を示すカウンター「Loopback Disabled」が追加されました。

3.13 ポート認証の機能拡張

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート認証」

スイッチポート単位で LAN 上のユーザーや機器を認証するポート認証機能を以下のとおり拡張しました。

○ MAC アドレスに基づいて機器を認証する MAC アドレスベース認証（MAC ベース認証）に対応しました。

○ RADIUS サーバーから受け取った認証情報に基づいてポートの所属 VLAN を変更するダイナミック VLAN に対応しました。ダイナミック VLAN は、802.1X 認証、MAC ベース認証のどちらでも利用可能です。

○ EAP-Notification メッセージに対応しました。

○ 802.1X Authenticator ポートにおいて、認証方式 EAP-TLS に対応しました（EAP-TLS を使用する Supplicant を認証できるようになりました）。

○ 802.1X Authenticator ポートにおいて、ゲスト VLAN を指定できるようになりました。

3.14 ローカル IP インターフェース（ループバックインターフェース）

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

仮想的な IP インターフェースであるローカル IP インターフェース（ループバックインターフェース）に対応しました。ローカル IP インターフェースの作成は ADD IP LOCAL コマンドで行います。作成したローカル IP インターフェースのアドレスは、BGP-4 や SNMP パケットの始点アドレスとして利用できます。

3.15 ICMP ルーター通知メッセージ

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

ICMP ルーター通知メッセージ（RFC1256）を送信して、LAN 上の IP ホストに自身のインターフェースアドレス（ルーターアドレス）を通知できるようになりました。機能の有効化は ENABLE IP ADVERTISE コマンドで、通知するインターフェースの指定は ADD IP ADVERTISE INTERFACE コマンド、ADD IP INTERFACE コマンド等で行います。なお、ルーター通知メッセージの受信には対応していません。

3.16 Gratuitous ARP パケットの受け入れ・破棄設定

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

IP インターフェースごとに、Gratuitous ARP パケットを受け入れるか破棄するかを設定できるようになりました。設定は ADD/SET IP INTERFACE コマンドの GRATUITOUSARP パラメーターで行います。デフォルトでは、すべての IP インターフェースで Gratuitous ARP パケットを受け入れます。

3.17 デフォルトルートに基づくプロキシー ARP

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「ARP」

プロキシー ARP の動作モードに DEFROUTE を追加しました。DEFROUTE モードでは、対象アドレスへの具体的経路が存在していなくても、デフォルトルートが登録されていれば ARP Request に代理応答します。一方、従来の動作モード（ON または STRICT）では、対象アドレスへの具体的経路が存在しないと代理応答しません。動作モードの設定は、ADD/SET IP INTERFACE コマンドの PROXYARP パラメーターで行います。

3.18 OSPF の機能拡張

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（OSPF)」

OSPF 関連機能を以下のとおり拡張しました。

- 準スタブエリア（NSSA: Not-So-Stubby-Area）を作成できるようになりました。
- OSPF インターフェースのコストを実際のリンク速度に基づいて自動的に計算できるようになりました。
- MD5 ダイジェスト認証に対応しました。
- OSPF に取り込める BGP-4 経路の数を 300 から 4000 に拡大しました。

3.19 BGP-4 の機能拡張

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（BGP-4)」

BGP-4 関連機能を以下のとおり拡張しました。

- BGP セッションを切断せずに BGP ピアの設定変更を反映するソフトリセットに対応しました。
- BGP ピアの設定変更を自動的に反映する自動ソフトリセットに対応しました。
- 共通のパラメーターを持つ多数の BGP ピアを設定する場合に設定の手間を軽減する BGP ピアテンプレート機能を追加しました。
- UPDATE メッセージ内のプレフィックスとプレフィックス長に基づいて経路をフィルタリングするプレフィックスリストに対応しました。
- ルートリフレクターと呼ばれる特殊な I-BGP スピーカーを導入して I-BGP セッション数を削減するルートリフレクションに対応しました。
- BGP セッションの信頼性・安全性を高める TCP MD5 認証に対応しました。

○　UPDATE メッセージの送信時に AS_PATH 属性からプライベート AS 番号を削除するプライベート AS フィルターに対応しました。

○　BGP ピアとの通信に使用するインターフェースがリンクダウンした場合に、Hold Time の満了を待たず、ただちにセッションをリセットする Fast Fallover に対応しました。

○　メモリー不足時に BGP-4 の処理を一時停止する BGP バックオフに対応しました。

○　BGP-4 モジュールのメモリー使用量を制限できるようになりました。

○　ルートマップのマッチ条件に NEXTHOP、ORIGIN、PREFIXLIST を追加しました。

○　BGP コミュニティーを指定するとき、従来からある単一 32 ビット値の形式に加え、2 つの 16 ビット値をコロンでつないだ形式（asn:xxx 形式）も使用できるようになりました。本バージョンからは、後者の形式が主流となります。

3.20 PIM-SM の機能拡張

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「PIM」

PIM-SM 関連機能を以下のとおり拡張しました。

○　特定の PIM-SM イベント発生時にログメッセージを記録したり、SNMP トラップを送信したりできるようになりました。

○　C-BSR、C-RP の設定において、広告する IP アドレス（IP インターフェース）を任意指定できるようになりました。

3.21 所有していないバーチャル IP アドレスへの応答

参照「コマンドリファレンス」/「VRRP」

VRRP のマスタールーターとして動作しているとき、バーチャル IP アドレスを実際に所有しているかどうかに関係なく、バーチャル IP アドレス宛ての Ping（ICMP Echo）、Telnet/SSH アクセス、SNMP 要求、DNS リレー要求に応答するような設定が可能になりました。設定は CREATE/SET VRRP コマンドの ADOPTIP パラメーターで行います。デフォルトでは、実際に所有していないバーチャル IP アドレスあてのパケットには応答しません。

4　本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl12** から **2.7.3-06** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

4.1　ファイル名の文字数拡張

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「記憶装置とファイルシステム」

ファイルのベース名（拡張子より前の部分）に使用できる文字数が 16 文字から 28 文字に拡張されました。

4.2　ポートトランキングとスパニングツリープロトコルの併用

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

ポートトランキングとスパニングツリープロトコル（ただし、オーバーラップ STP を除く）の併用が可能になりました。

4.3　ポートトランキングと IP マルチキャスト関連機能の併用

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」

ポートトランキングと IP マルチキャスト関連機能（IGMP、IGMP Snooping、DVMRP、PIM-DM、PIM-SM）の併用が可能になりました。
（8724SL は、PIM-DM を除いて、ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl12** から併用可能です。本バージョンから PIM-DM との併用も可能になりました）

4.4　VLAN 名の文字数拡張

参照「スイッチング」/「バーチャル LAN」

VLAN 名に使用できる文字数が 15 文字から 32 文字に拡張されました。

4.5　フォワーディングデータベースと ARP キャッシュ、L3 テーブルの同期

参照「スイッチング」/「フォワーディングデータベース」

フォワーディングデータベース（FDB）と ARP キャッシュ、L3 テーブルを連動させるよう仕様変更しました。

4.6　PING、TRACE コマンドと DNS

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

PING コマンド、TRACE コマンドが DNS を使用するようになりました。

4.7　ルーター LSA 受信時の動作変更

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（OSPF)」

ルーター LSA の受信時に L3 テーブルをクリアせずに保持するよう仕様変更しました。

4.8　IGMP Snooping

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP Snooping」

IGMP Snooping を単独で使用している場合（IGMP を併用していない場合）、Leave メッセージを受信しても受信ポートをグループから削除しないよう仕様変更しました。

4.9 ファイアウォール：転送可能な最大パケットサイズの変更

参照「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」

ファイアウォールがデフォルトで転送できる最大パケットサイズ（再構成後の IP データサイズ）を 1780 バイトから 1660 バイトに変更しました。データ部分が 1660 バイトを超える IP パケットの転送を許可したいときは、ENABLE FIREWALL POLICY コマンドの FRAGMENT パラメーターで許可するプロトコル（UDP、ICMP、その他）を指定してください。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.6.1 pl12** から **2.7.3-06** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

5.1 SHOW USER RSO コマンドの「Failed logins」欄と「Last failed login」欄に値が表示されないことがありましたが、これを修正しました。

5.2 メモリートリガーが正しく動作しませんでしたが、これを修正しました。

5.3 NTP による時刻取得ができなくなることがありましたが、これを修正しました。

5.4 電源をオンにしてから、時刻情報を設定しない状態で 24 時間経過すると、コンソールポートからのキー入力ができなくなっていましたが、これを修正しました。

5.5 本製品に Telnet ログインしているとき、Telnet クライアント側で「Ctrl」+「D」を入力するたびにメモリーが消費されていましたが、これを修正しました。

5.6 ポートトランキングと RIP を併用しているとき、トランクグループの所属する IP インターフェースがダウンすると、他の IP インターフェースから送信される RIP Response パケットの始点アドレスに、ダウンしたインターフェースのアドレスがセットされていましたが、これを修正しました。

5.7 CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行すると、ポートトランキングが動作しなくなっていましたが、これを修正しました。

5.8 トランクグループをマルチプル VLAN（Private VLAN）のプライベートポートとして使用している場合、SHOW CONFIG DYNAMIC=SWITCH を実行しても、ポートトランキング関連のコマンドが表示されませんでしたが、これを修正しました。

5.9 CREATE CONFIG コマンド、SET CONFIG コマンドの実行時に、Protected VLAN の作成コマンドが Private VLAN の作成コマンドに置き換わっていましたが、これを修正しました。

5.10 スパニングツリープロトコル（STP）有効時に ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になっていましたが、これを修正しました。

5.11 スパニングツリープロトコル（Rapid モード）有効時、ポートが Sync 状態になったときに送信する最初の BPDU に Proposal フラグをセットしませんでしたが、これを修正しました。

5.12 STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されていましたが、これを修正しました。

5.13 スパニングツリープロトコル（STP）の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されていましたが、これを修正しました。

5.14 スパニングツリープロトコル（Rapid モード）有効時、STP ドメインの RSTPTYPE パラメーターを変更してからポートの STP を有効化すると、RSTPTYPE の変更が反映されずに古い設定の BPDU が送信されることがありましたが、これを修正しました。

5.15 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して SET STP PORT コマンドを実行しても、設定変更がすべての STP ドメインに反映されないことがありましたが、これを修正しました。

5.16「ADD VLAN=xx PORT=x FRAME=TAGGED」で VLAN に追加したタグ付きポートにおいて、スパニングツリープロトコル（Rapid モード）が正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。

5.17 スパニングツリープロトコルを使用しているとき、高負荷通信時に MAC アドレスが FDB に登録されないことがありましたが、これを修正しました。

5.18 STP ドメイン「Default」が有効になっている環境において、複数の STP ドメインに所属しているポートに対して DISABLE STP PORT コマンドを実行しても、ポート無効の設定がすべての STP ドメインに反映されないことがありましたが、これを修正しました。

5.19 タグ付きポートを 802.1X Authenticator ポートに設定してもエラーにならないことがありましたが、これを修正しました。

5.20 802.1X Authenticator ポートの Port Status が authorised であるにもかかわらず、Supplicant が通信できなくなることがありましたが、これを修正しました。

5.21 システム起動直後、ケーブルを接続していない 802.1X Authenticator ポートに対して SHOW PORTAUTH PORT コマンドを実行すると、Authenticator PAE Status が INITIALISE であるにもかかわらず、Port Status が authorised と表示されていましたが、これを修正しました。

5.22 Windows 2000 Server（IAS）を RADIUS サーバーとして使用している場合、本製品の 802.1X Supplicant ポートが認証されませんでしたが、これを修正しました。

5.23 ポートの設定を 802.1X Supplicant から 802.1X Authenticator に変更すると、接続されていない Supplicant の MAC アドレスが FDB に登録されていましたが、これを修正しました。

5.24 名前解決ができないなど、PPPoE インターフェースを経由した通信が正しく行えないことがありましたが、これを修正しました。

5.25 ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされませんでしたが、これを修正しました。

5.26 異なるネットワークからディレクティドブロードキャストパケットを受信した場合、本製品が返す Reply パケットの送信元 IP アドレスに、受信インターフェースの IP アドレスではなく、送信元にもっとも近いインターフェース（パケットを実際に送り出すインターフェース）の IP アドレスをセットしていましたが、これを修正しました。

5.27 SET OSPF INTERFACE コマンドの PRIORITY パラメーターで OSPF インターフェースのルーター優先度を変更すると、該当 OSPF インターフェースの状態が初期化され、LSDB の交換が開始されていましたが、これを修正しました。

5.28 仮想リンクが確立している状態で OSPF エリアの設定を変更すると、リブートすることがありましたが、これを修正しました。

5.29 ASBR において、OSPF の経路情報を RIP にエクスポートするよう設定している場合、OSPF 経路のネクストホップアドレスが RIP インターフェースのネットワーク範囲と合致する場合に該当経路をエクスポートしませんでしたが、これを修正しました。

5.30 BGP-4 使用時、特定アドレス宛ての経路として、ルートマップの設定されている経路と、Withdrawn 状態の経路の 2 つが BGP-4 の経路表に登録されている場合、同じアドレス宛ての経路情報を受信するとリブートしていましたが、これを修正しました。

5.31 ADD IP ASPATHLIST コマンドで不正な AS パスパターンを指定するとリブートすることがありましたが、これを修正しました。

5.32 DNS キャッシュ機能使用時、キャッシュエントリーがタイムアウトで削除されても、メモリーが解放されないことがありましたが、これを修正しました。

5.33 ソフトウェア IP フィルターのエントリー番号に欠番がある場合（例：エントリー 1、3 があって 2 がない状態）、SET IP FILTER コマンドの ENTRY パラメーターが正しく機能しませんでしたが、これを修正しました。

5.34 DHCP/BOOTP リレー機能使用時、パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされませんでしたが、これを修正しました。

5.35 マルチホーミングした IP インターフェース上で UDP ブロードキャストヘルパーを使用する場合、後から設定した論理インターフェースのネットマスクがクラス標準マスクで

ないと、この論理インターフェースでパケットを受信したときに UDP ブロードキャストヘルパーが機能しませんでしたが、これを修正しました。

5.36 IPv6 ルーティング時、あるトラフィックフローの最初のパケットが他のルーターからリダイレクトされてきた場合、約 1 時間後に該当トラフィックフローのパケットをルーティングできなくなっていましたが、これを修正しました。

5.37 RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行すると、スタティック登録した Neighbour キャッシュエントリーも削除されていましたが、これを修正しました。

5.38 CREATE CONFIG コマンドを実行しても、ENABLE IPV6 ADVERTISE コマンドの設定が保存されませんでしたが、これを修正しました。

5.39 VLAN が 1 つしか存在しない状態で DVMRP を有効にすると、不正なパケットを送信することがありましたが、これを修正しました。

5.40 （PIM-DM）Prune Limit Timer 満了後にマルチキャストデータを受信しても、Prune メッセージを送出しないことがありましたが、これを修正しました。

5.41 （PIM-DM）SHOW PIM ROUTE で表示される Keep Alive time が正しくカウントダウンされないことがありましたが、これを修正しました。

5.42 IGMP Snooping 有効時、150000 件以上のマルチキャストグループが登録された後でこれらのグループエントリーがタイムアウトするとリブートしていましたが、これを修正しました。

5.43 マルチホーミングしたインターフェース上でファイアウォール NAT が正常に動作しませんでしたが、これを修正しました。

5.44 PRIVATE 側インターフェースに設定した NAT ルールにおいて、REMOTE パラメーターに本製品のアドレスを指定していると該当ルールが機能しませんでしたが、これを修正しました。

5.45 VRRP が無効状態のときに VRRP インターフェースがリンクアップすると、その後 VRRP を有効化しても該当インターフェースでは VRRP が動作しませんでしたが、これを修正しました。

5.46 CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定し、なおかつ、STEPVALUE パラメーターに値を指定した場合、その後 PORTMONITORING を OFF に変更して設定を保存すると再起動時にエラーが発生していましたが、これを修正しました。

5.47 DHCP サーバー有効時、DHCPNAK メッセージを送信しませんでしたが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.7.3-06** には、以下の制限事項があります。

6.1 ログ

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。

6.2 SNMP

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

○ MIB-II の ifInErrors、イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。

○ ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards がカウントされます。

○ topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。

○ dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。

6.3 SET TTY コマンドの PAGE パラメーター

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

6.4 Telnet セッション数の制限

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーター（同時に確立可能な Telnet セッション数）が正しく動作しません。実際には、指定した値 +2 として扱われます。たとえば、MAXSESSIONS=3 と設定した場合、MAXSESSIONS=5 として動作します。

6.5 フローコントロール

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

DISABLE SWITCH PORT FLOW コマンドでフローコントロールを無効にした後、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存し、SET CONFIG コマンドで保存したファイルを起動時設定ファイルに指定すると、システム再起動時にエラーが表示され、フローコントロールが無効になりません。設定ファイルを EDIT コマンドで開き、「flow=jamming,pause」の部分を「flow=pause」に修正するか、再起動トリガーを使用して対処してください。

6.6 ポートトランキング

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

○ CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。

○ ポートトランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMPSNOOPING コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
（「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します）

○ ポートトランキングと DVMRP の併用時、マルチキャストデータの転送ができなくなることがあります。

6.7 スパニングツリープロトコル

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

○ スパニングツリープロトコル（STP）有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。

○ Rapid モードで非ルートブリッジとして動作している場合、ポートが Discarding 状態から Forwarding 状態に遷移するときのフォワードディレイタイムとして、ルートブリッジの値ではなく自身の設定値を使用します。

6.8 ハードウェア IP フィルター

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ハードウェア IP フィルター」

○ 8748SL では、ポート 25 ～ 48 とポート 49 で受信したパケットに対して、ハードウェア IP フィルターの SENDNONUNICASTTOPORT、SENDEPORT アクションが機能しません。

○ SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドの実行時、変更したエントリーと既存のエントリーの間に矛盾が生じた場合、変更したエントリーが無条件に削除されます。SET SWITCH L3FILTER ENTRY コマンド実行時に「Error (3087288): Switch Operation failed.」と表示されたときは、SHOW SWITCH L3FILTER コマンドで変更したエントリーが削除されていないか確認し、削除されていた場合は ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで再度追加してください。

○ EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

○ ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで IMPORT=False、または EMPORT=False を指定すると、IMPORT=True、EMPORT=True の設定で動作します。False で動作させたい場合は、IMPORT、EMPORT パラメーターを指定しないでください (デフォルトで False の設定になります)。

6.9 ポート認証

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート認証」

○ 802.1X Multi-Supplicant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。

○ 802.1X Multi-Supplicant モードの Authenticator ポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルターエントリーが削除されません。また、残ったエントリーを手動で削除するとリブートします。

○ DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルターエントリーが削除されません。

○ ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。

6.10 ICMP メッセージ

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

6.11 TRACE コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

SET TRACE コマンドで値を設定し、SHOW TRACE コマンドで表示すると、設定した値が正しく表示されない場合があります。

6.12 IP 統計情報

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

ファイアウォール有効時、SHOW IP INTERFACE COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター（ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards）に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。

6.13 BGP-4

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（BGP-4）」

○ ADD BGP PEER コマンド、SET BGP PEER コマンドの EHOPS パラメーターが機能しません。

○ プライベート AS フィルターを有効にすると、自身のプライベート AS 番号まで削除してしまいます。

6.14 DNS サーバーアドレスの動的取得

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

6.15 DNS キャッシュ

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

6.16 スタティック ARP エントリー

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「ARP」

マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリブートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

6.17 ソフトウェア IP フィルター

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「ソフトウェア IP フィルター」

ADD/SET IP FILTER コマンドで OPTIONS パラメーターを指定した場合、フィルターが正しく動作しません。

6.18 Neighbour キャッシュ

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「近隣探索」

Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。

6.19 DVMRP

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「DVMRP」

○ DVMRP とタグ VLAN の併用時、マルチキャストデータが正常にルーティングされないことがあります。

○ DVMRP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラッディングされません。

6.20 PIM

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「PIM」

（PIM-DM/PIM-SM）マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェア IP フィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
ADD SWITCH L3FILTER MATCH=DIP DCLASS=HOST
ADD SWITCH L3FILTER=1 ENTRY DIP=224.0.0.13 PRIO=5 AC=SENDC
```

6.21 IGMP

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新します。

6.22 IGMP Snooping

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP Snooping」

○ SET IGMPSNOOPING ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

○ IGMP Snooping 機能において、メンバーの存在しないグループ宛てのパケットが転送されることがあります。

○ IGMP Snooping 使用時、複数のメンバーが存在するマルチキャストグループから 1 つのメンバーが脱退すると、SHOW IGMPSNOOPING コマンドで表示される Entry timeout が更新されます。

○ IP の設定がされていないと、Leave メッセージを受信したときに受信ポートをグループから削除します。

6.23 MLD Snooping

参照 「コマンドリファレンス」/「IPv6 マルチキャスト」/「MLD Snooping」

IGMP Query、RIP などの IPv4 のルーターパケットを受信した際に、内部テーブルの All Group エントリーにその受信ポートを追加します。

6.24 IPX

参照 「コマンドリファレンス」/「IPX」/「IPX インターフェース」

IPX インターフェースの構成ポートがすべてリンクダウンしても、SHOW IPX CIRCUIT コマンドの表示項目 Link State に反映されません（表示上は「up」のまま）。このようなときは、いったんケーブルを抜き差しすると正しく表示されるようになります。

6.25 ファイアウォール

参照 「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」

○ PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。

○ 不正な Ack 番号を持つ TCP セグメントに対しても Ack を返します。

○ ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。

○ ADD FIREWALL POLICY コマンドでダイナミック ENAT の PUBLIC インターフェースに IP と LIST を指定したルールを設定した場合、エラーメッセージが表示されます。その場合は、ADD FIREWALL POLICY コマンドで MAC アドレスリストを追加し、SET FIREWALL POLICY コマンドで IP アドレスを設定してください。

○ FTP サーバーの制御用コネクションポートが 21 以外のとき、FTP データの通信に対して NAT が機能しません。

○ PUBLIC 側から PRIVATE 側に対して FTP 通信を行った場合、SHOW FIREWALL SESSION コマンドで不要なセッションが表示されることがあります。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。

○ PUBLIC 側インターフェースにルール NAT（エンハンスト、リバース、ダブルのいずれか）を設定した場合、PUBLIC 側から PRIVATE 側への FTP 通信が正常に行えないことがあります。

○ ファイアウォールを無効にしても、SHOW FIREWALL POLICY COUNTER コマンドで表示される「Number of active session」の値がクリアされません。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。

6.26 DHCP サーバー

参照「コマンドリファレンス」/「DHCP サーバー」

MacOS X など一部の OS を搭載したコンピューターがスリープ状態から復帰するときに IP アドレスを取得できない場合があります。このようなときは、リースされている IP アドレスを一度解放し、再度取得させるようにしてください。

7 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.7（Rev.D）」の補足事項です。

7.1 HTTP サーバー（サポート対象外）

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティーを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

7.2 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

7.3 スイッチポートの統計カウンター（8748SL のみ）

8748SL では、ポートグループ「1 ～ 24、50」と「25 ～ 48、49」をまたぐパケットは、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される ifOutUcastPkts、ifOutErrors、DropEvents カウンターにカウントされません。

7.4 1000Mbps ポートのフラッディングレート

リンクしている 10/100Mbps ポートの数によって、拡張モジュールの 1000Mbps ポートのブロードキャスト、マルチキャストの転送率が下がる場合があります。

7.5 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループット

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

7.6 フォワーディングデータベース

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「フォワーディングデータベース」

1 回目のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリーがフォワーディングデータベースから削除されない場合があります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリーが削除されます。

7.7　ハードウェア IP フィルター

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ハードウェア IP フィルター」

○　IPv6 ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPv6 パケットに対して、Ethertype = 0x86DD（IPv6）の条件を持つハードウェア IP フィルターエントリーがマッチしません。ルーティング対象の IPv6 パケットをフィルタリングするには、IPv6 フィルターを使用してください。ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPv6 パケットには、前述のハードウェア IP フィルターがマッチします。

○　IPX ルーティングを有効にしている場合、ルーティング対象の IPX パケットに対しては、SENDMIRROR 以外のアクションが機能しません。また、SENDMIRROR アクションと EPORT パラメーターは併用できません。ルーティング対象の IPX パケットをフィルタリングするには、IPX トラフィックフィルターを使用してください。なお、ルーティング対象でない（スイッチングされる）IPX パケットには、すべてのアクションが機能します（ただし、IP パケットを前提としている MOVETOSTOPRIO、SETTOS、MOVEPRIOTOTOS、SETIPDSCP アクションは使用不可）。

○　フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリーを作成した場合、このエントリーはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチします。

7.8　ポート認証

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート認証」

ポート認証（802.1X 認証、MAC ベース認証）を有効にしたポートでは、ポートトランキング、スパニングツリープロトコル、ポートセキュリティーを使用できません。また、802.1X 認証の Authenticator ポートと MAC ベース認証ポートをタグ付きに設定することはできません。

7.9　IP マルチキャストのハードウェア処理

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「概要」

スイッチ間をタグ付きポートで接続している場合、タグ付きポートを通過する IP マルチキャストパケットは、最初に ADD IP INTERFACE コマンドを実行した VLAN の VID を持つものだけがハードウェア処理の対象となり、他の VID を持つパケットはソフトウェア処理となります。ソフトウェア処理される場合のパフォーマンスは「ワイヤースピード÷ VLAN 数」となります。タグ VLAN 環境で IP マルチキャストを使用するときは、タグ付きポートに割り当てる VLAN 数を 3 つまでにすることをおすすめします。

8 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

○ 以下の機能別キーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ACC, APPLETALK, BRI, CLASSIFIER, ETH, FRAMERELAY, GARP, GRE, GUI, PIM6, IPSEC, ISAKMP, ISDN, L2TP, LAPB, LAPD, LDAP, LOADBALANCER, LB, LPD, MIOX, PKI, PRI, Q931, RSVP, SA, SERVICE, SSL, STAR, STARTUP, STT, SYN, TPAD, TACACS, VLANRELAY, X25C, X25T, TDM, DS3, VOIP

○ 以下のコマンド（パラメーター）

太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

COPY

DUMP

START PKT
STOP PKT
SET PKT
SHOW SYSTEM TEMPERATURE

TRACE [ADDRONLY]

PING [APPLEADDR ¦ OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ¦ SOSIADDRESS]
SET PING [APPLEADDR ¦ OSIADDRESS] [SAPPLEADDRESS ¦ SOSIADDRESS]
PURGE PING TOTALLY

SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [MULTICASTMODE] [SPEED={10MHAUTO ¦ 10MFAUTO ¦ 100MHAUTO ¦ 100MFAUTO ¦ 1000MHAUTO ¦ 1000MFAUTO ¦ 1000MHALF}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST

CREATE/DESTROY IP POOL
SHOW IP POOL
ADD/DELETE IP ROUTE FILTER [PROTOCOL={STATIC ¦ INTERFACE}]
ADD/DELETE/SET IP FILTER PRIORITY
ADD/DELETE IP EGP
ENABLE/DISABLE IP EGP
SHOW IP EGP
ADD/SET IP RIP [NEXTHOP]
ADD/DELETE IP SA

SHOW IP SA
SET IP ARP [DLCI] [CIRCUIT]
SET IP RIP NEWIPADDRESS
SET IP FLOW
SHOW IP FLOW
SHOW IP CACHE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
ADD/DELETE/SET IP ROUTE BLACKHOLE

ADD/DELETE DVMRP [DLC]
ADD/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]
SET DVMRP [DLC]
SET DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/DELETE IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/DELETE IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 MLD
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW
ADD/SET IPV6 INTERFACE [TYPE=ANYCAST]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE QOS
ADD/DELETE QOS
SET QOS PORT
SET QOS POLICY
SET QOS TRAFFICCLASS
SET QOS FLOWGROUP
SHOW QOS POLICY
SHOW QOS TRAFFICCLASS
SHOW QOS FLOWGROUP

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY] [COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT] [FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER] [NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER] [CBOPERATION] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE] [MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACCHECK] [TERMINATE] [TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]

SET BOOTP MAXHOPS

ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ENABLE/DISABLE BGP DAMPING
CREATE/SET BGP DAMPING PARAMETERSET
ADD IP ROUTEMAP [MATCH TAG]

9　コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス**「CentreCOM 8724SL/8748SL コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0019-01 Rev.D)」**は弊社ホームページに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー**「J613-M0019-01 Rev.D」**は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

http://www.allied-telesis.co.jp/